



⑧発信する ⑨追究する ⑩粘り強く ⑪つながる ⑫思いや願いを実現しようとする ⑬課題解決する

学ぶことが好きな子どもに

校長 許斐 真也

新年あけましておめでとうございます。皆様には、旧年中は本校の子どもたちのために多大なるご支援をいただき、心より感謝いたします。年始にあたり、皆様のますますのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

近年、加速度的に生活が便利になっています。自動運転の自動車、切符を買わずに利用できる電車、目的地まで迷わずに到着できるよう案内するアプリ…。もちろん、安全や時間の節約など、私たちに様々な恩恵を与えてくれています。それらを活用することで、生活をより豊かにすることもできるでしょう。しかし、それら全てを甘んじて享受することは果たしてよいことなのでしょうか。様々な経験、知識などから適切な判断ができる分別のある大人ならば、自分にとってそれが全てよいことなのかどうかは多面的に考えることができると思います。では、子どもにとってはどうでしょうか。

元来、子どもは自ら経験したことからより深く学び、理解することができます。赤ちゃんの時には暑い・寒いといった不快感を泣いて訴え、親が対応してくれることで「泣けば何とかなる」ということを学ぶことをはじめとして、次第に高度なことを学習し、身に付けていきます。1年生では自分で選んだ花を育てますが、土づくりから始まり、種をまき、最後に枯れたつるから新たな種を収穫するまで世話をすることで、植物の育て方や成長の初歩を学びます。土づくりはどうすればよいのか、途中で植木鉢に雑草が生えたらどうするか、子どもなりにいろいろな悩み、考えます。友だちと話し合ったり、人に訊いたりすることもあります。水やりを忘れて枯らしてしまうこともあります。そこにも学びはあります。また、喜びや悲しみなどの感情も伴うでしょう。だからこそ余計、学びは深まるのです。活動の結果として、「花を育てるには種を土にまいて水をやって…」と理解するわけですが、活動なく文面だけで知ることに、子どもの学びとして果たしてどれくらいの価値があるものなのでしょうか。

学校では、子どもたちにできるだけ様々な経験を積ませたいと考えています。読む、書くだけでなく、自分で作ったり、育てたり、詳しい人に尋ねてみたり、学んだことを伝えたり、たくさんあります。そうして子どもに「探究心」に基づく「学び方」を身に付けさせ、「学ぶことが好きな子ども」を育てていきたいです。その力をもって一人ひとりが自分の人生を切り開いていくことを願っています。

今年も職員一同、さらによりよい学校づくりをめざしていきたくと考えています。学校と、家庭と地域が互いに支え合いながら歩んでいくことができますよう、これまでと同様、ご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

